

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300282		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	埼玉県北本市緑3丁目16番地		
自己評価作成日	平成29年11月 1 日	評価結果市町村受理日	平成30年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「地域に密着したホーム作り」を常に心がけて支援させていただいています。心身ともに良い状態であることが笑顔につながると考え入居者の思いを汲み、身体の状態を見ています。現在ではホーム便りも年6回の発行が定着し、年2回のご家族様を交えての「家族会」を企画し参加頂きました。それらのことにより、ホームでの日常をより細かくご家族様に伝える事が出来るようになったと思います。環境面ではホーム前に緑地があることを活かして子供連れの方、犬を散歩させている方の挨拶、また庭に花を植えることで道行く人に興味を持っていただくよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の小学生の職場体験の場として協力している。訪問は2回あり、2回目には気さくに声をかけ合う姿が見られる。利用者からは「子ども達から元気をもらえる」との声も聞かれ、1回目とは雰囲気にも違いがみられる。小学生にとって自分たち出来る事を考える機会となっており、体験後の小学生からの手紙には、利用者を気遣う言葉もみられる。地域の中のおじいさん、おばあさんとしての役割を担える取り組みが行われている。緊急時に関しては、避難場所が地域の中に確保されており、職員も緊急連絡網の試行を行い改善点を考えている。また、運営推進会議には市職員の参加を毎回得られ協力関係が築かれている。利用者が安全に、地域の中で暮らし続ける支援が行われている。外食会には家族の参加もあり、利用者の普段の生活を見て貰う機会としている。連携の下、支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務室入り口のところに掲示し、毎朝、朝礼時に唱和し、日々の実践に取り組んでいます。	事業所独自の理念がある。現状にあわせて見直しを行う体制も整えている。他職種との連携や専門的研修受講によって得られた知識を基にした支援が行われており、理念に基づく実践が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の加入により、町会行事への参加、ホーム内行事の際には近隣の方々への参加声かけ、日常的には散歩時の挨拶等を行っている。	町内会の清掃には事業所として参加している。併設デイサービスの休日を利用して地域にフロアーを開放し、介護保険の説明や介護相談等をうけている。地域の中の事業所として避難場所としての依頼も承諾している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	第三日曜日にDSのフロアーを開放し、認知症についてのご相談等をお受けしている。また、運営推進会議においても理解して頂く機会を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホーム内での現状報告と共にご家族の意見、町会長からのアドバイスを頂き、サービスに反映させるように努めている。今後予定を伝えることで地域の方々への参加の促し方等の意見をいただいている。	行政、町会長、民生委員、家族、地域包括支援センターの参加を得ている。状況や外部評価等の報告を行っている。意見に対して参加者間で検討され迅速な対応が図られており、利用者や家族の安心に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方へ出席頂いたり、連絡部会等への出席を通して密に連絡を取り合い、協力関係にある。	市主催の合同展覧会に参加し利用者と共に市役所を訪問している。入居相談等、相談事がある際には直接市役所を訪問している。市の担当者には顔を覚えて貰えており、協力関係が築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については防犯上夜間(21時頃～6時頃)行っているが、その他・危険防止との思いから安易に拘束にあたる行為をしないよう常に他の職員と相談しながらケアにあたっている	外部の研修会に参加し職員間で内容の共有が図られている。たとえ安全を理由としても、短絡的方法ではなく、利用者の心に添える方法を考え実施している。「あと5分待ってください」等と具体的に伝える事により利用者の理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待については各職員が入浴や更衣の際に気を配り通常と違うところがあった場合にはどういう状況で出来たものかその都度検証し確認する。精神的虐待については日頃の声かけがそれで良いか勤務している者同士が常に疑問に思いながら入居者に接している。また職員がストレスをためないよう思ったことを口に出せる環境を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は特にご要望等はございませんが、その都度、意向を判断し、支援出来るよう対応いたします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時にきめ細やかに説明させて頂き、契約時にあらためて書面に添って十分に説明を行い、同意を得ています。また、法改正や料金変更が生じる際には説明すると同時に同意書を頂いて確認をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置の他、苦情相談窓口、第三者委員氏名を掲示している。また面会時等には、積極的に情報交換の場を持つよう努めている。	会議や面会時を利用し家族からの意見を聞くように努めている。職員も意見の言いやすい関係作りに努めている。家族会で出た要望に対して、現状を踏まえて実施内容を検討し、反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議でのやりとりや、職員との面談により、意見・提案を聞き取っている。・誕生会やクリスマス会などの行事の企画を担当制で実施しているほか、内部研修についても担当を決め、意欲的に業務に取り組めるようにしている。	管理者は休憩時間や見守りの時間を利用し職員の話聞くように努めている。意見は支援に反映するように努めている。また改善に向けて考える機会とも捉え、職員とのコミュニケーションの展開を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改定された給与基準により個々の行動が以前に比べ給与に反映されるようになり、その事が向上心につながっていると思われる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り内外の研修へと参加促しているが人員の確保が難しく制限されてしまうこともある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市役所主催のGH連絡会などに積極的に参加し、他のGH職員との意見交換や勉強会を行っている。また市の現場研修事業には参加しており、職員の研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の為、ご自身の思いが十分言葉や形に出せない方にはご家族の思いを伺い、またご自身とご家族の思いが違っている場合は少しでも近づくことが出来るよう話し合い、アドバイスさせていただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度だけではなく、必要に応じ数度にわたって、話し合う機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や施設見学の段階においても可能な限り、入居希望者の状況についての聞き取りを行い、他機関や他サービスの紹介も含め、助言を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な空気や関係から、遠くない雰囲気と持てる力を出して頂ける様努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の輪に入れる様な、日常のご本人への支え方を考えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族をはじめ、友人・知人や出掛けていた馴染みの場所があれば継続出来る様に支援します。	家族や友人、知人の面会がある。兄弟との手紙の交換を行っている利用者には、ポストへの投函を代行している。携帯を所有している利用者には連絡の際の手伝いを行う等、関係継続に繋がるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人ずつの性格・個性を把握し、ストレスを減らし、和やかに生活出来る様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でのやりとりや他施設へ移られてからの状況確認を行っている。また、利用中止者にもお手紙を書いたり、一周忌にはお手紙を添えて献花しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々の状態に応じ、会話の中や表情等で出来るだけ把握し、検討させて頂いています。	思いや意向の把握に当たっては、利用者には語りにくい心もあると忖度しながら聞くように心がけている。言葉にする事が困難な場合には表情から把握し、職員間で利用者本位の考えを基として検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔話や好みのお話等を通して把握したり、ご家族の方にお聞きしたりして把握する様、努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士で申し送りや情報を共有して現状の状態を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人にお聞きしたり、ご家族にはプラン見直し時に用紙を送り書いて頂いたり、面会時にお聞きしたりしています。尚、医療機関にはその都度相談しており、内容によってはプランに反映するようにしています。	個人台帳には計画に沿った支援内容が表示されたモニタリング用紙が貼られている。職員はその内容に沿って支援し、記録している。記録を基にモニタリングが行われる。見直しは、家族意見等を考慮し行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、主だったことを記載し、スタッフ間で共有し、担当者を中心に話し合い、見直しをしています。又、個別ノートを使用し、活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関送迎・付き添い、また、ご家族を自宅～ホーム送迎等、その時々に行っています。また、買物等、ご家族に許可を得て購入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを利用させて頂き、皆様に楽しんで頂いています。また、図書館で紙芝居を借り喜ばれています。地域の運動会に今まで通り行きたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の医師往診、月4回の訪問看護。ご希望の方には月4回の訪問歯科をご利用頂いております。主治医もご本人・ご家族様の希望により変更しています。	かかりつけ医での受診は家族同行を基本とし、困難な際には職員が同行する。利用者の状態の報告を事前に行い、家族からも受診報告を受けている。服薬や処置についての情報が共有され支援に活かされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護があり、その都度指示を受けています。主治医と同じ機関なので横のつながりを密に出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入・退院時は必ずスタッフも同行するようにしており、看護師と情報交換するようにしています。また、医師診断時、ご家族に同行をさせて頂くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、病状に合ったDr. に変更したり、新規に訪問看護を契約したりして状況を把握し、スタッフ間で情報を共有しています。	重度化についての指針があり入居時や状態変化時にも説明している。利用者の状態変化に対する家族の不安には傾聴を心がけている。訪問看護からのアドバイスを家族に伝えたり、家族にも協力を依頼する等、連携の基に利用者支援を行った経験がある。	家族からも看取りに関する要望が聞かれており、今後は看取り体制を図るに当たって、医療との連携や職員の研修制度等を検討していきたいと事業所は考えている。利用者、家族支援に向けての環境作りに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して、全職員皆、共有出来る様に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の方による避難訓練を実施し、その他に夜間に緊急連絡網を利用して訓練を行い、身近なものとして受け取れるよう努めています。地域との協力体制とし、推進委員会を利用し、少しでも多くの協力体制を築けるように努力しています。	日中を想定した避難訓練を実施し利用者全員を屋外に誘導した。職員が車いす利用者役となり2階からの避難も行った。利用者の避難場所について消防署や地域と確認しており緊急時の安全確保が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ちが落ち着いて、安らかに生活して頂ける様、お一人お一人を尊重する事を心掛けています。	浴室から出る際には必ずタオルを体に巻く。排泄時にはドアを閉めたり、換気扇を使用する等、プライバシーや臭気にも配慮した工夫をしている。接遇やマナー研修へ参加し、尊厳を尊重した支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意思や、選択を表す場を持てる様、会話や生活において気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の好みや、希望に添える様、可能な範囲の中で把握し、合わせる様に考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んだり、時に口紅やマニキュアを好みでして頂ける様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の一部や片付けはホームでの役割の気持ちの張りになる様、又、好物を持って来て頂いたり、好みの食べ方にしたり気配りしています。	書の得意な方に献立表を書いてもらい飾っている。テーブル拭きや野菜の皮むき等、利用者も共に行う。お皿拭きは順番で担当して貰う程人気がある。他者への賞賛の声や、利用者の積極的な参加がみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量がお一人ずつの体調等に適量になる様、特に水分は脱水にならぬ様に必要量を摂取出来る様にし、摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人ずつに合った方法で口腔ケアし、清潔を心掛け、週1回の訪問歯科による口腔ケアをお願いしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインやタイミングや傾向を把握し、なるべくトイレで排泄出来る様支援します。	利用者の「もぞもぞ」や「そわそわした後の急な立ち上がり」等、サインを見逃さずトイレでの排泄を支援している。トイレ内の手すり設置の検討や身体状態の把握を行い、状態に沿った支援を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カルピスやヨーグルト、牛乳、食物繊維、運動等で便秘にならないように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調・希望等をお伺いしながら調整し、支援しています。	1日おきに入浴する事ができる。入浴時間は予め設定されているが利用者の希望によっては時間に幅を持たせる。同性介助の希望には対応している。利用者から「温まって気持ちがいい」の声が聞かれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調・希望に添った休息と、その方によって安眠を促せるよう暫く傍に寄り添うなど、努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容・作用・副作用を把握し、安全に服薬し、体調の変化がないか日々観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の皮むき、食器拭き等して頂くことで生活に張りが出て、レクリエーションや会話で楽しんで頂ける様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望があればご家族とも相談し、可能な限り外出や目的が果たせるよう考えています。	天気の良い日は散歩にでる。利用者の体力面や身体状態によっては、ベランダでの外気浴を選択する等、太陽に当たり過ごせるような工夫をしている。家族との外食や、初詣、紅葉、バラの観賞など季節を感じる事のできる外出も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望が有り、お金を持っていることで安心感がある場合は一緒に保管し、使用出来る様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の仲介を行い、聞き取りや理解・発信等のお手伝いをさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに混乱無く生活が出来る様気配りし、必要なところは改善し、壁の飾り等でも季節感を感じれるようにしています。	窓のカーテンは間欠的に開けられており日差しを感じる工夫がされている。眩しく感じる利用者には日差しを背にした席の配置にする等、状態に配慮した支援が工夫されている。居間には金魚もおり、気にかけてえさやりを行う利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席だけでなく、席を移動したり、和室・窓際・カウンターで随時過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活の道具を持ってきて頂き、家の心地良さを時に感じて頂く様ご家族と相談しています。	居室のカーテンは日中開けられており、時間帯や季節を感じる事ができる。居室には仏壇や家族からの写真等がある。馴染みの物や家族を感じる事の出来る物がおかれており、安心して過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持てる力をなるべく維持し、活かしていかれる様考慮し、その為の安全を大切にしています。		